

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学 術)	氏名	森元 真理
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
幼稚園の保育者の動物飼育に対する「知識」と「態度」の向上を図る試み - 幼児と飼育動物に配慮した『動物介在教育』の実現を目指して -			
論文審査担当者			
主 査	教 授	谷 田 創	
審査委員	教 授	河 合 幸 一 郎	
審査委員	教 授	坂 井 陽 一	
審査委員	准教授	黒 川 勇 三	
外部審査委員	帝京科学大学こども学部 講 師 木 場 有 紀		
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、生き物を介して子ども達の心を育む動物介在教育に焦点をあてた研究である。わが国の幼稚園では、子ども達の心を育むために動物飼育が行われてきたが、動物の管理に対する保育者の意識や対応には様々な問題のある事が指摘されている。本研究では、幼稚園の飼育動物の適切な管理とその動物を介在した効果的な教育を実践する事を目的として、幼稚園の主要な飼育動物であるウサギの飼育管理の実態を明らかにする共に、保育者の動物に対する知識と意識、それに基づく態度を改善するための方策を検討している。</p> <p>第I章では、緒論として、研究の背景、子どもと動物の関わりに関する既往の研究、わが国における動物飼育の歴史、本研究目的について述べられている。</p> <p>第II章では、「ウサギの飼育管理に関する47園の現地調査」と「ウサギの飼育管理に関する1園の長期的な現地調査」を通してウサギの飼育管理の実態が明らかにされている。47園の調査からは、主成分分析を用いて飼育管理の指標として「ウサギのQOLの向上に不可欠な管理項目」と「ウサギの生存にとって不可欠な管理項目」の2つの主成分が抽出され、各主成分得点の散布図からは多くの幼稚園が不適切な飼育管理状況にある事が明らかとなった。また、特定の園を対象とした調査からは、「掃除」や「給餌」などの基本的な飼育管理すら十分に行われていない現状が明らかになった事から、飼育動物を介した教育の実現には、まず飼育に対する保育者の「知識」と「意識」を向上させることが、「態度」の改善につながるものと考えられた。</p> <p>第III章では、「幼児と飼育動物」「保育者と飼育動物」との関わりについて調べるために、一年に渡り参与観察と面接調査を実施して、幼児と保育者の飼育動物との関わりの実態について明らかにしている。両調査から、幼児が動物と関わる際の保育者の対応が不適切なために、飼育活動が幼児らの心の育みにつなげていない事が示唆された。</p> <p>第IV章では、不適切な飼育管理の原因と考えられる保育者の「意識」と「知識」のレベルを向上させるための方策として、飼育動物ニュースレターの配布効果を検証している。定期的なアンケート調査の結果から、配布期間の後半では「飼育改善のための取り組み」</p>			

を実践した保育者とそうでない保育者の割合に有意な差が認められた事から ($P < 0.05$)、ニュースレターは一部の保育者の飼育についての「知識」と「意識」の向上に一定の効果のある事が示唆された。

第V章では、保育者の不適切な「態度」を改善する一方策として、飼育ウサギに対する「名づけ」に注目しており、47園のウサギの飼育管理および名づけに関する調査から、名づけと飼育管理状況の関連性についての検証が試みられている。その結果、名づけあり園の方が季節管理等を有意に多く実践していた事から ($p < 0.05$)、「名づけ」と適切な飼育管理との間には関連性のある事が示唆された。また、管理が適切な園では単純な「名づけ」よりも動物への思い入れを示す「名づけ」の方が多く認められた事から、ウサギを個として認識できる様な名づけが重要であることが示唆された。

第VI章は総括的考察および結論であり、飼育動物を介した適切な教育を実現するための提言がまとめられている。

本研究は、わが国の幼稚園におけるウサギの飼育の実態と保育者の問題点を明らかにすると共に、その改善策の検討と効果の検証を試みている点において独創的な研究であり、研究の成果は、今後わが国の幼稚園で飼育動物を介した教育を実践していく上で波及効果が高いと考えられる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。